

# いしかわの遺跡

No.  
52  
2016.12.26

## かんごうしゅうらく 環濠集落を掘る



発掘された環濠

小松市八日市地方遺跡は、北陸を代表する弥生時代中期の大規模な環濠集落で、JR 小松駅の東側一帯に広がっています。

北陸新幹線建設に係る発掘調査を平成 27 年度から開始し、遺跡を南北に縦断するように調査を進めています。

初年度は、集落域の北西端の調査を行い、平地式建物や方形周溝墓と呼ばれる墓地などが密集する状況を確認しました。このほか、これらの北辺を囲む大きな環濠 4 条を発掘し、土器や土製品、管玉と呼ばれる碧玉製の装飾品、木製品などを多数発見しています。



あかご  
編み籠などの木製品

公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477

FAX 076-229-3731

E-mail ● mail@ishikawa-maibun.or.jp ホームページ ● 「いしかわの遺跡」で検索 (<http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>)



# 中カワナミマエダ遺跡 (輪島市)

輪島市三井町中地内に位置する遺跡で、能越自動車道輪島道路建設に関連して平成 25 年度から発掘調査を実施しています。遺跡は、中川と仁行川の合流地点西側の微高地に立地しています。

調査の結果、縄文時代中期中葉(上山田式)と古墳時代、古代、中世を中心とした遺跡であることが判明しました。

古代は、板塀列と側柱式掘立柱建物などを確認しました。中世は、総柱式掘立柱建物 9 棟のほか土坑、室状遺構、溝、柵列などがありました。主な遺物には、縄文時代の土器、石器、古墳時代末～平安時代の須恵器、土師器や、沿岸部で作られた製塩土器、中世の土師器、珠洲焼、青磁、白磁、瀬戸・美濃焼、中国製銅銭、硯・砥石などがあります。

三井町一帯は、中世では鳳至郡大屋荘内の三井保に比定されており、14 世紀前半には京都の崇徳院御影堂領となっていました。本遺跡も三井保を構成する集落であったと思われます。3 ヶ年にわたる調査により、輪島市三井町中地内周辺における歴史の一端を解明する成果が得られたものと思います。



調査区全景 (北から)



第 3 号掘立柱建物



第 5 号掘立柱建物



中世の硯 (高嶋石製の四葉硯)



古代の板塀

H27  
発掘調査しょう にししま いせき つばくらはいじ かがし  
庄・西島遺跡、津波倉廃寺（加賀市）

江沼平野のほぼ中央に位置する遺跡です。一般国道8号の拡幅工事に伴い国道の両側を調査しました。

主な遺構は、古代の掘立柱建物、土坑、溝、井戸などです。とくに西側の調査区では約20棟の掘立柱建物が整然と並ぶ様子が確認されました。建物のほとんどは南北方向に長く、中支えの柱を使わない側柱建物です。最大の建物は3間×6間の規模がありました。建物群のそばでは当時の道路と考えられる「波板状凹凸面」が見つかりました。土坑は、後世の土取り穴のように数回にわたって掘り広

げられたように見えるもので、3ヶ所程検出しました。東側の調査区では弥生時代～古墳時代の建物や土坑、中世の用水路なども確認されました。

遺物は古代の須恵器、土師器が主体で、弥生土器、瓦、石鏃なども出土しました。瓦は平瓦、丸瓦で、凸面に格子状のタタキ目、凹面に布目が見られます。

本遺跡では以前より古代寺院跡の存在が指摘されてきましたが、今回の調査では寺院跡やそれに関連する遺構は確認できませんでした。今後の調査によって詳しい様相が解明されていくことが期待されます。



調査地遠景（西より）



掘立柱建物（古代）



土坑群（古代）



壁溝のある土坑（弥生時代）



寺家遺跡、柳田猫ノ目遺跡、柳田シャコデ遺跡、柳田台地遺跡 (羽咋市)

寺家遺跡は、昭和53年に能登有料道路（現在の「のと里山海道」）建設に関わる工事の際に発見された、海岸砂丘に埋もれた奈良・平安時代を中心とする遺跡です。その後の発掘調査により古代の祭祀の跡や、関連する施設、使用された祭祀遺物が多数発見され、「渚の正倉院」とも呼ばれており、平成24年1月に国の史跡に指定されました。今回の「のと里山海道」拡幅に伴う発掘調査は、寺家遺跡の第20次調査になります。

調査では、寺家遺跡の北側に隣接する柳田猫ノ目遺跡、柳田シャコデ遺跡、柳田台地遺跡も含め、弥生時代から中世の集落域や生産域が洪水砂等の堆積層を挟んで重複する状況を確認しました。

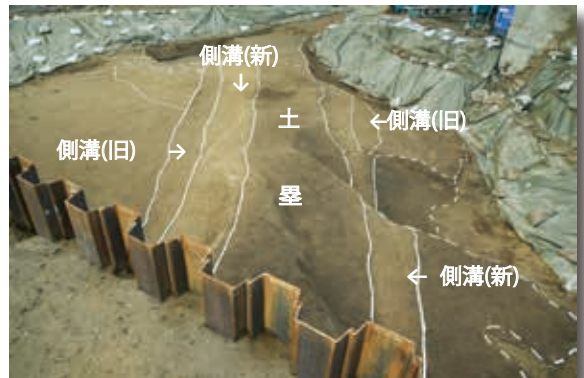
寺家遺跡では、史跡に隣接する地点で直線状に伸びる中世の土塁と側溝が見つかりました。史跡指定地では土塁や溝を巡らせた1辺約50mの方形区画が並んで見付き、遺跡の変遷を考える上で貴重な遺構であることから今回見つかった遺構も現地で保存されることとなりました。その他、古代から中世の柱穴、畝の畝溝などを検出し、土師器、須恵器、珠洲焼などの遺物が出土しました。

柳田猫ノ目遺跡では、弥生時代から中世の集落域及び生産域が洪水砂等の堆積を挟み重複している状況を確認し、掘立柱建物、柱穴、井戸、土坑、畦状遺構、畝溝、水路、溝などの遺構を検出しました。また縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、珠洲焼、陶磁器、木製品、石製品、金属製品などの遺物が多く出土しました。

柳田シャコデ遺跡、柳田台地遺跡では、掘立柱建物、柱穴、土坑、溝などの遺構を検出し、古墳時代後期の土師器や須恵器が溝や落込みからまとも出土しました。調査地は丘陵裾部の集落縁辺にあたりと考えられます。



調査地遠景



寺家遺跡 (中世の土塁と側溝など)



柳田猫ノ目遺跡 (中世の掘立柱建物・井戸・溝など)



柳田シャコデ遺跡、柳田台地遺跡 (古墳時代末頃の須恵器平瓶)

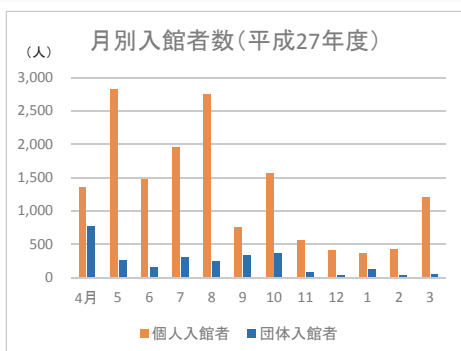
## 埋蔵文化財センターの団体利用

石川県埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の発掘調査を行い、出土品や記録資料を保管するとともに、それらを活用し、学校教育や生涯学習において気軽に郷土の歴史を学ぶことができる開放型の施設として平成10年に開館し、18年が経過しました。この間、同13年には体験学習機能を持つ「古代体験ひろば」も開設しています。

入館者数は着実に増加し、特に個人の入館者が大幅に伸びています。一方、団体の入館者は古代体験ひろばオープンの方が最も多く、その後は大きな変化が見られません。

当センターでは小学校などへ出向く出前考古学教室も積極的に行っており、近年は金沢市、小松市など市町の埋蔵文化財センターや教育委員会においても類似した出前体験学習教室を提供するようになり、教室などで古代の暮らしに触れる機会が増えました。

今後は、出前教室とあわせて古代体験ひろばを活用した魅力ある体験学習の充実に努め、より多くの方々に当センターに足を運んでもらうことが課題と考えています。



**団体利用(体験学習、施設見学)**

概ね40人までを1グループとして、職員が指導、解説します。予約が必要です。

**体験学習の例**

- ・火起こし(30分)・クルミ割りと試食(30分)・土偶づくり(40分)・縄文アクセサリ(30分)・土鈴づくり(40分)・縄文人の暮らしにふれる(100分)・まが玉づくり(90分)・弥生の食を考える(120分)

**施設見学**

目的、年齢構成、時間に応じて4通りのモデルコースを準備しています。予約段階で希望を聞き、内容を提案します。

**全体コース**(標準時間約60分)

施設見学を中心に、下記の3コースを見学することができます。小学校4年生以上にお薦めのコースです。

**施設見学コース**(約40分～)

出土品の整理や保管など、埋蔵文化財センターの仕事を見学します。調査成果のまとめ方や保存、活用について学び、文化財への関心や理解を深めてもらいます。

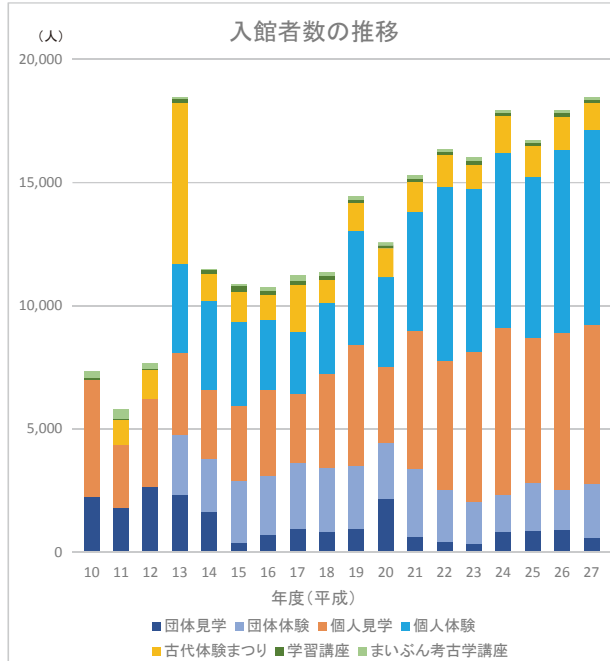
**展示解説コース**(約40分～)

常設の展示室や市町別に主な遺跡を紹介した収蔵展示室、ホール展示の解説をします。先人の知恵や技、ふるさとの歴史を学びます。

**古代体験ひろば見学コース**(約30分～)

復元住居(縄文、弥生、奈良時代)、体験農園、移設古墳などを回り、住まいや暮らしを考えます。

※ 詳細はホームページ「いしかわの遺跡」をご覧ください。





## 平成 27 年度発掘報告会「いしかわを掘る」

平成 28 年 3 月 6 日 (日)、石川県立美術館ホールで毎年恒例の発掘報告会を開催しました。県内各地の発掘調査から 6 ヶ所の遺跡を取り上げ、調査員が最新の調査成果をわかりやすく紹介しました。毎年楽しみに参加される方も多く、今回は高校生から 80 歳代まで 190 名の方々が熱心に耳を傾けました。

志賀町北吉田ノシロタ遺跡は弥生時代後期～古墳時代中期の集落で、軟弱な地盤に対応するため様々な種類の礎板そばんを使い、柱の沈下を防ぎながら住み続けたことが明らかにされました。

七尾市佐味今田谷内古墳群の報告では、土地所有者が、古墳群の保存や地域の歴史を学び広めるために保存会を設立したことが紹介されました。七尾市教育委員会は、前方後円墳ぜんぽうこうえんふんの1号墳、円墳えんふんの2・3号墳の測量や、形・規模を確認する発掘調査を行い、古墳公園としての活用策を検討しているとのこと。

野々市市末松廢寺跡では史跡公園の再整備を進

めるための調査が進んでいます。白鳳寺院の姿を解明するための調査で、塔跡の東側で儀式用の旗竿はたざおを立てる支柱の穴が確認されました。

小松市漆町遺跡うるしまちでは、室町時代後期～江戸時代初期の鉄鍋鑄造工房の様子を紹介され、鉄を溶かす炉の一部や、鍋の鑄型いがたの出土が報告されました。遺跡の所在地には鑄物師の存在を推定させる「金屋」という地名が現在も残っており、まさにその場所で鉄鍋が作られていた様子が明らかにされました。

金沢城下町遺跡(本多氏屋敷跡地区)では、県立美術館が、本多氏上屋敷跡かみやしきあとに位置することが絵図などで示されました。

金沢城跡(鼠多門・鼠多門橋)の調査は、鼠多門ねずまたもんや金谷出丸かなやでまる(現在の尾山神社境内)とをつなぐ木橋を復元整備するために行っており、明治時代の火災で変色した礎石そせきや、門付近の石垣の様子などが紹介されました。



報告風景



漆町遺跡の報告



質疑応答



満員の会場

H27  
古代  
体験

## 古代体験学習講座「縄文手さげづくり」

縄文土器の底に付いた圧痕、かごや編物の出土品から、縄文時代にさまざまな編物や組物が作られていたことがわかります。しかしそれらは、樹皮や竹、植物の茎など腐りやすい素材のため、出土することはまれです。平成28年3月13日(日)に実施した古代体験学習講座では、縄文時代のかごや編物の技術を学び、植物の利用を体感できる「縄文手さげづくり」を新規の体験学習として実施しました。

講座では出土品とテキストを使い、縄文時代に確認される編物と組物の技術を学びました。なかでも、金沢市米泉遺跡から出土した編布は、細い糸を「もじり編み」という方法で編み込んだ布で、縄文人の手仕事を具体的に知ることができる出土品として注目されました。手さげの製作では、古代体験の「編布づくり」で利用している製作台を使用し、最初に太い麻糸で底部を編み、つぎにイネ科の多年草であるマコモの茎で側面を編み上げました。仕上げでは、

すだれ 簾のような側面に底部を縫い付け、麻紐を四つ編みした持ち手を付けて、講座オリジナルの素朴な「縄文手さげ」が完成しました。

参加者は、細い経糸のカラムシ糸に苦戦しつつも、単調な「もじり編み」を楽しみながら、作品を仕上げました。アンケートでは、「自然のバッグに興味があった」「縄文時代にあこがれている」「縄文人の気持ち分かるほど、とても大変でした」などの感想があり、多くの参加者が満足したようでした。

縄文時代は気候が温暖化するなかで、植物の利用が大きく進みました。住居や衣服など多様な品物が縄文人の手作業で作られ、かごや編物はしなやかで弾力をもつ容器として使われたと概説されています。今回、製作した手さげは、講座オリジナルの編物ですが、参加者には縄文世界を新たに想像する機会となったようです。



ガイダンスの様子



側面の「もじり編み」



底の縫い付け



完成した縄文手さげ

## 訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

### 国指定史跡 加賀藩主前田家墓所

江戸時代、加賀藩は加賀・能登・越中三ヶ国約100万石を超える領地を統治しました。その藩主大名家の前田家は、初代利家が織田信長・豊臣秀吉に仕え金沢城を居城とし、2代藩主利長の時代には全国最大の大名家となりました。

金沢市野田町野田山の前田家墓所には、初代藩主利家をはじめとする藩主や正室、子女等の墓が造営されており、指定面積は約86,000㎡に及んでいます。また、利長の墓所は大名家個人墓として全国最大級の規模で、富山県高岡市に造営されました。

野田山の各墓は土を盛った方形墳を基本の形とし

ており、堀や祭壇部を設けたものもあります。初期の藩主墓は大型で、3段に盛られています。

加賀藩主前田家墓所は、大名家墓所として全国でも有数の規模と威厳を備え、近世の大名家権力や墓制を知る上で貴重であることから平成21年2月に前田利長墓所とともに国の史跡に指定されました。また、墓所下方には加賀藩士や町人等の墓も多数営まれ、現在も市営墓地の造営が続いています。

墓所入口には駐車場が設けられており、参道の整備が進められています。



初代前田利家墓



墓所前の解説板と駐車場

所在地：金沢市野田町野田山  
交通：JR金沢駅から車で40分  
問合せ先：金沢市文化財保護課  
電話 076-220-2469

高岡市 前田利長墓所  
所在地：富山県高岡市関  
交通：JR高岡駅から車で15分  
問合せ先：高岡市教育委員会文化財課  
電話 0766-20-1463